

48 重複障害者の属するクラスに対する保健体育授業の教官 2 人体制について

理療教育・就労支援部理療教育課 江黒 直樹、細川 健一郎

目的： 理療教育課程において重複障害者が増える一方で、従来通り授業は教官 1 人体制で運営している。今年度、体育教官が 2 名となり、最も難しい重複障害者（聴覚・視覚）を属するクラスに対して、安全面及び学習・実技の理解度を上げる点に重点を置いて 2 人教官で授業を実施した。実施結果を基に前年度を比較し、来年度の授業体制に生かすことを目的とする。

方法： 該当クラスに担当者独自でアンケートを作成し 5 月に実施する。毎年、後期授業開始の 10 月に授業アンケートを全科目対象に実施する。

結果の概要：

運動量の変化については (2.2)、運動技能の指導場面については(2.8)、説明のわかりやすさ(2.8)、安全面の配慮 (2.6) の 4 項目については以上の結果となった。

※ 1. 少なくなった 2. 変わらない 3. 多くなった

授業アンケートから、授業満足度については (3.0→3.5)、わかりやすさ (3.2→3.5)、熱意 (3.0→3.7)、興味をもてたか (2.8→2.8)、学習への援助 (2.8→3.3)

昨年に比べ、満足度と学習への支援が 0.5up し、熱意が 0.7up している。重複障害者の支援を目的に二人体制を行ったが、クラス全体としても満足度や学習支援が個別でも感じられる授業が行われた。また、熱意についてはほとんどの方が感じていると応えている。

考察：

指導を行う上で留意しなくてはいけないことは、安全に体を動かせることである。そのために場所（体育館・グラウンド等）の環境を理解させることが大切である。授業は集団で行うため、人との接触等にも配慮しなくてはいけない。また、授業内容についても十分の理解した上で実施なくければ、安全に行うことができない。現在、理療教育課程の利用者は視覚障害だけでなく、聴覚障害や肢体不自由（車椅子使用者）など重複障害者が増えてきている。今回対象となったクラスは視覚と聴覚の重複障害者 1 名がいる。結果をみると満足度があがった理由として、2 人の体育教官の役割分担として指導メイン者とサブに分けれ、サブの役割が非常に大切で利用者の理解度を高めることを心がけ、補足説明を個々に応じて実施した。また、そのことが他の項目でも学習支援やわかりやすさがアップしている要因につながってくると思う。以上の点を考えると必要な情報を個々に専門性を生かし、伝えられることができることが大切なことだと思う。今回の結果を参考に次年度に向け、準備していきたい。